

くまもと中央支部かわら版

熊本県行政書士会 熊本中央支部

第4号 (29.8.21) 発行責任者 牧 加壽登

今期第一回の支部研修会開催！

去る7月28日、熊本県行政書士会館の会議室に於いて、登録年数の浅い会員等を対象に「先輩行政書士に学ぶ業務処理の流れ」というテーマのパネルディスカッションを実施しました。パネリストには日高会員、古市会員、堀田会員のベテランに加えて新人代表として外山会員が選ばれ、最初に受託した仕事の対応や業際問題・コンプライアンスを中心に議論が展開され、経験者のノウハウをコーディネータ役の平川会員が上手く引き出しながら、フロアの参加者にも意見や質問を求めて、和気藹々とした研修となりました。

午後は、日高会員の「公正証書遺言」の作成ノウハウについて実務的なワンポイントレッスンが行われ、参加者は熱心にメモを取って、有意義な研修の一日となりました。



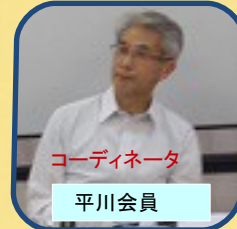
和やかにパネルディスカッションで意見交換！



日高会員



古市会員



コーディネータ

平川会員



堀田会員



外山会員

パネルディスカッションは昼食を挟んで、午後の時間に渡って行われた。会場からも熱心な質問が続き、パネリストとのやり取りで踏み込んだ議論が展開された。

また、昼食後に井口会長も参加され、日行連の広報部長として「ゆるキャラグランプリ」でのユキマサ君の応援投票の協力を求めている。



パネリストの皆さんはハツラツとして、さすがでしたニヤーン！それにしても、平川コーディネータがきちんと時間管理して凄かったニヤーン。会場も満席で盛況でしたニヤーン。



第二部は「公正証書遺言の実務」ワンポイント研修！



パネルディスカッションのあとは、日高先生がこれまでに培ってきた遺言書作成のノウハウを集めた研修生に分かりやすく、資料に従って教えていただいた。「準備するもの一覧」「実際に使った遺言事項」「当事者等目録」「財産目録」「相続関係説明図」と順を追って説明があった。

注目のポイントは、真に依頼者のために真摯な対応でしっかりと内容を受け止め、その人のために何が一番かを追求して行う仕事の姿勢に皆、感動をし、メモをとって頭に刻み込んでいた。



編集後記 『秋来ぬと目にはさやかに見えねども 風の音にぞおどろかれぬる』

立秋の日に詠んだとされるこの歌は平安時代の三十六歌仙の藤原敏行の歌だという。百人一首にも入って耳障りの良い短歌である。立秋は二十四節気のひとつ。季節の移り変わりを知るためのものでもあるようだが、立秋といっても、残暑は年々厳しさを増している。暦の上では秋に入ったが、最近は季節感を味わうような気候ではない。それでも朝夕少しふわりと涼しい風を頬に感じるのもこれからの季節。たまには感性豊かな時間に向き合うのも良いものである。